

婦人科悪性腫瘍の薬物反応に関連する遺伝子の探索 およびゲノム情報に基づいた個別化治療法の確立

患者さんの情報の研究利用についてのお知らせ

本研究の目的

本研究は、慶應義塾大学医学部産婦人科で行っている研究です。目的は、婦人科悪性腫瘍（卵巣がん・子宮体がん・子宮頸がんなどの病気）における治療に関連した遺伝子や遺伝子の発現を制御する情報（ゲノム情報）を調べることです。抗がん剤の効きさすさや副作用の起こりやすさを規定している遺伝子についての新しい知見を得ることで、より詳細な診断法、より良い治療法、より効果的な予防法を開発することができると考えています。その上で、将来的に患者さん個々の遺伝情報に応じた治療法（テーラーメイド医療）の実地臨床への応用を目指しています。

本研究の概要

本研究の目的に該当する患者さんを対象に、慶應義塾大学病院産婦人科において手術や生検など診療の中で既に採取させていただいた組織（以下試料）を用い、婦人科悪性腫瘍に関連したゲノム情報（抗がん剤の効きさすさや副作用の起こりやすさを規定している遺伝子などの情報）を探索いたします。また、診療記録（カルテ）の中から、各種の診療情報（年齢・組織型・進行期・予後など）を記録した上で、ゲノム情報とともに分析いたします。研究対象として最大 100 名程度の患者さんの試料および診療録の情報を利用させていただきます。

研究期間

2012 年 10 月 1 日～2014 年 3 月 31 日（予定）

プライバシーの保護に関して

研究において利用させていただく試料は既に診療の中で採取されたものの残りをを用いるため、患者さんへの身体的負担はありません。また診療情報は、すべて通常の診療の中から収集されたものを使用します。すべてのデータは、患者さん個人を直接特定できない匿名化情報として収集された上、厳格に保護されます。また本研究は慶應義塾大学医学部倫理委員会における審査をうけ承認を得られたものです。

もしこの研究についてのご質問等がおありの場合は、研究責任者または実務担当者までご質問ください。また御自身の情報を本研究に利用することについて、ご了承いただけない

い場合には、以下の研究責任者または実務担当者に御連絡ください。なおその場合においても、皆様の病院サービスご利用について不利益が生じることは、全くございませんのでご安心ください。

2013年4月1日

研究責任者

慶應義塾大学医学部産婦人科

教授 青木 大輔

実務担当者

慶應義塾大学医学部産婦人科

助教 野村 弘行

連絡先： 03-5363-3819 (FAX 03-3353-0249)